

## 普及現地情報



発信年月日：令和6年（2024年）3月28日  
所 属 名：高島農産普及課  
番 号：H23023  
部 門 分 類：120 麦・豆・雑穀  
発 信 者 名：小嶋俊彦、中橋富久

### 高島地域で小麦「びわほなみ」の現地研修会を開催

高島地域では、農業者の所得向上を目的に収益性が高い小麦「びわほなみ」への転換をJA等の関係機関と連携して進めています。小麦の高品質・多収を目指して12名の生産者とは場巡回による研修会を開催しました。

高島地域は、秋に「高島時雨」と呼ばれている降雨があり、冬に積雪日数が長く、水が溜まりやすい湿田が多いことから、麦の作付けには適さない地域だと認識されている農業者が多くおられました。このことから、令和2年までの麦類作付面積は、市内水田面積のわずか2.2%にあたる100ha程度で推移していました。しかし、JA等の関係機関と連携して麦作を推進したことで、若い農業者の積極的な取組に繋がりました。

実証ほでは、排水対策を講じることで、単収400～600kg/10aが可能であることや、六条大麦の「ファイバースノウ」に比べて、小麦の「びわほなみ」の方が需要量が多く、単収や品質も高いことが確認できました。このことから、令和5年播きでは湖辺や平坦地を中心に「びわほなみ」への転換が進み、12経営体が50haで栽培されています。しかし、殆どの生産者は「びわほなみ」の栽培は初めてで、早播きで黒節病や縞萎縮病、凍霜害が発生しやすいことや、積雪や低温による生育への影響も十分には把握できていません。

このことから、「びわほなみ」のほ場をJAと定期的に巡回して生育状況を確認し、追肥等の管理作業を指導しました。2月8日と3月13日には農業者と一緒に、ほ場巡回による研修会を実施し、茎数や葉色、茎立期、湿害、凍霜害を確認するとともに、排水作業や追肥、除草剤散布を指導しました。引き続き、JAと連携して追肥や赤かび病防除、適期収穫等を指導し、単収600kg/10a、一等Aランクを目指します。



現地ほ場巡回による研修会